

# ワーカーズ

http://www.workers-net.net/  
mail workersnet@workers-net.net

毎月1日発行 1部150円 半年1000円(郵送)  
郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2020/9/1 610号



## 今号の内容

- ・安倍政権の「終わりの終わり」  
―繰り返すまじ、劇場政治―②③④
- ・安倍首相はコロナ対策に不適合!  
退陣を要求する! ③④
- ・コロナの夏と山歩き ④⑤
- ・中学時代の不思議な思い出(六義園) ⑤⑥
- ・コラムの窓... ⑥
- ・読書室 佐々木隆治氏著  
『私たちはなぜ働くのか マルクスと考える資本と労働の経済学』 ⑦⑧
- ・エイジの沖縄通信・NO73 ⑨⑩
- ・色鉛筆... ⑩

# 安倍政権の「終わりの終わり」 当事者自身の闘いで安倍政権を退陣に追い込もう!



さきの8月24日、安倍首相の連続在任期間が歴代最長になった。が、これは皮肉にも安倍内閣の「終わりの終わり」の様相をもたらした。長期政権を誇った安倍政権がいよいよ終幕を迎えているのだ。

安倍政権の終幕は、突如として訪れた年初からの新型コロナ渦の拡大で加速された。安倍首相自身の失策が続いたからだ。それ以前からの「モリ・カケ」「桜」「河井克行・案里事案」なども、裁判などで現在進行中だ。内閣支持率も、政権発足以来最低の20%台30%台まで落ち込んでいる。

失態続きになった最大の理由は「安倍一強」政治の行き詰まりだ。国政選挙での連戦連勝を土台とした、官邸官僚という最側近グループを従えた安倍首相中心の政策運営の限界、綻びでもある。側近政治というのは、安倍一強という独裁政権を維持・延命させることが最優先となる。結局、普通の庶民の感覚から遊離し、忖度最優先の指示待ち官僚組織も機能しない。

内閣支持率の低迷を受けて自民党内部でも「ポスト安倍」を見込んだ

政局がらみの動きも目立ってきた。最近では安倍首相の健康問題も浮上している。

そんな安倍政権に対し、野党の再結集も進んでいる。9月中旬には150人規模の新野党が結成される。しかし、日米安保堅持、自衛隊合憲、消費税維持など「保守本流」を明言する枝野代表は、野党の立場として自民党との対決姿勢を押し出しているが、実質的には第二保守党だ。野党が増えるのは政権交代の観点からは歓迎だが、その「保守本流政権」に期待することはできない。

結局、事態を打開するのは、労働者自身の闘いの如何に関わってくる。このコロナ禍で、しわ寄せは多くの業種やその従事者に偏っているが、とりわけ非正規労働者やフリーランスの労働者に雇用危機、生活危機が押し寄せている。現時点でも、休業を余儀なくされた労働者が増えているし、失業状態に追いやられる労働者は、今後も確実に増える。

こうした事態に対し、政府による財政支出にばかり期待しては行かない。雇用や賃金をめぐる闘いなどで各種ユニオンに加盟しての闘いで成果を上げているケースも多い。企業や政府の雇用責任や生活補償責任を追究することも含め、労働者自身の闘いを拡げることで「終わりの終わり」を迎えた安倍政権を退陣に追い込んでいきたい。(廣)

次ページに関連記事掲載

# 安倍政権の「終わりの終わり」 ——繰り返すまじ、劇場政治——

安倍政権の「終わりの終わり」の兆しは三方向で表れている。

一つ目は、安倍内閣の支持率の低下だ。若者、とりわけ30才代の安倍政権離れだ。二つ目は、コロナ・ショックによる経済の落ち込みと、コロナ対策での失態続きだ。三つ目は、自民党内で政局がらみの動きが加速していることだ。

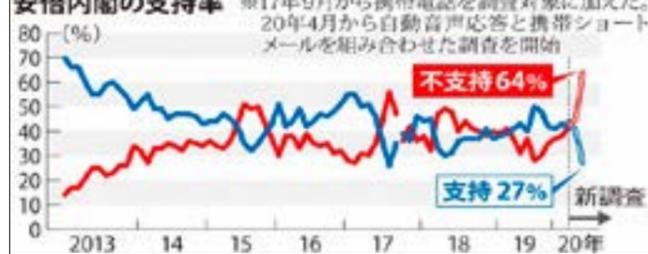
付け加えれば、このところの安倍首相の健康問題も加わっている。

## ◆始まった「若者」の安倍離れ

まず内閣支持率の低下だが、目立つのがこれまで安倍内閣を支えてきた若者の支持率低下だ。

安倍政権の特徴は、18歳以下20才台や30才台の若者の支持率の堅さに支えられていたことだ。それもあって、これまで集団的自衛権・安保法制やモリ・カケ問題で支持率が落ちてもやがて持ち直

す、という経緯をたどってきた。それがこのコロナ禍で、岩盤支持層と言われた18歳以下20才台や30才台、特に30才台で安倍内閣の不信が増えた。30才台、40才台といえど子育て真っ最中の世代だ。小中高の一斉休校で共働き家庭の負担が高まったり、拡がる休業や失業の増加に直撃された雇用不安、生活不安が高まってきたことの結果だろうか。



毎日新聞と社会調査研究センターは2020/5月23日、全国世論調査。

史上最長になった安倍政権を支えてきたのは、発足前から始まった景気回復局面と、円安・株高で景気回復を演出したアベノミクスによる経済の安定によるところが大きい。ところが、消費税が10%に引き上げられる1年も前の18年10月から実質的な景気後退局面入りしていたことが判明した。その上、今年拡がったコロナ禍で4〜6月期のGDPが前期比で7.8%減、年率27.8%減という落ち込み余儀なくされた。その影響で、倒産、

失業者、希望退職の募集、休業者などが激増し、安倍政権にとって強烈な逆風となった。安倍政権の戦前回帰の反動政治や「モリ・カケ」その他のスキャンダルで、いったん下がってもなんとか持ち直してきた内閣支持率、子育て世代や働き盛りを直撃したコロナ禍で堅調な経済という基盤が崩れると同時に、急落したわけだ。

## ◆迷走するコロナ対策

次は、新型コロナ対策での失策だ。2月末の小中高の一斉休校から始まってアベノマスク、目詰まりするPCR検査、ペットの犬とくつろぐ動画、減収世帯への30万円給付、電通との癒着など、ことごとく世論の反発を受け、首相批判も拡がった。そして7月からのGo・Toトラベルをめぐるゴタゴタだ。

そんな状況のなか、安倍首相とその取り巻きたちの迷走を受けて「安倍四選」の声はぱったり止まってしまった。そのあげく、と言うべきか、自民党内でも政局がらみの動きが目立つようになった。

派閥のボスたちや党・政府高官の有力者は、これまで安倍総裁（首相）の再選や三選への「よい、よい」で競っていた。が、いまは「安倍四選」の話はどこへやら、「ポスト安倍」を巡る派閥のボスどうしの「会食・会談」がお



第2次安倍政権以降の歩み

年	月	出来事
17年	9月	野党6つが自派を離れ統一野合を結成
17年	12月	衆院選で自派が大勝、第2次安倍政権発足
17年	4月	アベノミクス、第一の次で日韓の貿易元金協定を決定
17年	7月	参院選で与党が過半数、安倍「おじれ」報道
17年	12月	特命検察保護法が成立、清酒神社を参拝
18年	4月	消費税率を5%から8%に引き上げ
18年	12月	消費増税延期の是非を問うとした参院選で与党が3分の2議席を獲得
18年	6月	参院選で与党が過半数、安倍「おじれ」報道
18年	9月	閣議で総辞職の報道
18年	9月	自派が自派の1部行使を認め安全確保法が成立
18年	7月	憲法改正案の「否を問う」として参院選で与党が過半数を確保
18年	10月	自派が参院選を連続3回まで逆転方針
17年	12月	国有地売却による森友学園問題が表面化、若狭の産・地産品の販売が焦点に
18年	5月	首相が2020年に自派参院選の新憲法施行を指すビデオメッセージ、参院選で自派が過半数を確保
18年	10月	参院選で与党が3分の2議席を獲得、改選死が分る
18年	3月	森友問題で参院選の公文書改ざんが発覚
18年	9月	閣議で7割改定案が決定
19年	5月	秋田県知事、参院に改選
19年	7月	参院選で自派が3分の2を占めるも与党過半数を確保
20年	10月	消費税率を10%に引き上げ
20年	7月	東京五輪開幕
21年	9月	自派が参院選3期連続で逆転した

おっぴらに繰り返されているのが実情だ。その上で持ち上がったのが、安倍首相の「健康不安」情報だ。未だ憶測の域を出ない情報にとどまっているが、仮に事実ならいよいよ政権の行く末は不透明になる。

## ◆おしまいにしよう「劇場政治」

今回のコロナ禍では、首相や政府の対応だけではなく、知事を始め各自治体の首長に多くの注目が集まった。それは新型インフル特措法で、政府の緊急事態宣言が出た場合に、知事が外出自粛やイベント制限などの要請や指示を各企業や店舗などに出せるようになってきているからだ。特措法での具体的な対応策では知事

が主役だ。注目されて当たり前なのだ。その自治体首長、最初に注目されたのは、政府に先だつて今年2月に小中高校の一斉休校、それに自治体独自の「緊急事態宣言」と「不要不急の外出・往来自粛」を続けて打ち出した鈴木直道北海道知事だった。次に、独自の自派要請や支援金を給付した小池都知事、自派要請を判断する独自基準の「大阪モデル」を提起した吉村大阪府知事、その中の一人、大阪府の吉村知事は、独自の往来自派要請や独自の支援金給付など、迅速な対策をアピールして世論の評判をとった。連日テレビなどに登場し、ネットなどでは「イケメンで若くて有能で誠実で……」と、トップリー

ダーとして人気急上昇したという。要するに、コロナ禍中でまた劇場政治の様相が深まったわけだ。「観客」の側も、目の生活が緊迫・激変している

ので、関心もより強くなったのだろう。ただし、そうした劇場政治も長続きはしない。小池都知事も「感染爆発」や「東京アラート」など目立つキャッチフレーズの発信ばかり目立ち、現実のコロナ対応では後手後手に回っている。「東京版CDC（アメリカ疾病予防管理センター）」などは、中身がまったく伴っていない。大阪の吉村知事も政府との間合いで揺れ動き、早とちりした「イソジンうがい薬」の推奨でコケてしまった。強くて有能な

トップリーダーを振りまきたいのだから、事態が進行するにつけて、メッキも剥がれ落ちつつある。

## ◆「ゆ党」に未来はない

そんな吉村知事人気もあって、副代表を務める大阪維新の会（日本維新の会）の人氣も高まった。この7月の世論調査では、毎日新聞の調査で立憲民主党9%、日本維新の

会10%、共同通信の調査で立民6.3%、維新6.3%と、同じか上回る結果だった。国民民主党から維新にすり寄る議員も現れ、いま総選挙となれば東京などで議席が見込める状況だといえる。

その日本維新会、憲法改定や大阪万博などでは安倍政権と連携するなど、野党でも与党でもない「ゆ党」などと揶揄されている。実際、安倍首相や菅官房長官と定期的に会食しているように、実質的には自派の別働隊となっている。たしかに、与党以外からの野党への側面攻撃は効果的だ。ただし前回総選挙では大幅に議席を減らし、衆院10議席のうち未だ人氣がある大阪府以外では3議席しかない。

その日本維新の会の位置取りは、ドイツのキリスト教社会同盟（CSU）に似ている。バイエルン州を基盤にした地域政党だ。ドイツの政権はメルケル首相率いるキリスト教民主同盟（CDU）（＝中道右派政権）を中心に与党を形成してきたが、バイエルン州だけはCDUの支部がなく、逆にCSUはバイエルン州以外では活動していない。実質的にはCSUはCDUのバイエルン支部になっていて、連

邦議会では、統一会派（CDU/CSU）を形成している。維新の会と自派がともに今後とも議席を増やしていくことは、まず無理だ。自派が順調に増えれば、補完勢力の意味などなくなってしまうからだ。実際、かつての「新自由クラブ」や「みんなの党」など、結局は、第二自派はみな消滅している。日本維新の会も、そうした経緯をたどりつつあった。それが今回の人氣復活だが、自治体首長と

国政は根本的に違う。結局は、日本維新の会も同じ道を通るしかない。日本維新の会がもし生き残るとすれば、大阪府や近畿圏の地域政党として、ドイツのCSUと同じように、自派の地域支部として生き残っていく以外にないだろう。

自派やその補完勢力、あるいは「保守本流」の新野党に甘い幻想は持たない。それらに依存することなく、私たち労働者や市民の闘いで安倍政権に対抗し、退陣に追い込みたい。

## ◆自前の闘いで安倍政権を退陣に追い込もう！

自民補完勢力としての日本維新の会と自派がともに今後とも議席を増やしていくことは、まず無理だ。自派が順調に増えれば、補完勢力の意味などなくなってしまうからだ。実際、かつての「新自由クラブ」や「みんなの党」など、結局は、第二自派はみな消滅している。日本維新の会も、そうした経緯をたどりつつあった。それが今回の人氣復活だが、自治体首長と国政は根本的に違う。結局は、日本維新の会も同じ道を通るしかない。日本維新の会がもし生き残るとすれば、大阪府や近畿圏の地域政党として、ドイツのCSUと同じように、自派の地域支部として生き残っていく以外にないだろう。自派やその補完勢力、あるいは「保守本流」の新野党に甘い幻想は持たない。それらに依存することなく、私たち労働者や市民の闘いで安倍政権に対抗し、退陣に追い込みたい。

# 安倍首相はコロナ対策に不適格！

## 退陣を要求する！

### ●健康不安

安倍首相の健康不安が取り沙汰されている。「持病の潰瘍性大腸炎が悪化しているのでは？」「胃潰瘍も併発しているのでは？」「コロナ禍の激務が続いてストレスが蓄積している」「疲れがあるので休ませるべきだ」「近く退陣せざるを得ないのでは？」

だが何倍も「疲れている」のは国民、労働者の方だと言いたい！

### ●不適格

「健康不安」の如何に関わらず、安倍首相に対してただちに退陣を要求する権利がある。その理由は、この半年の安倍首相を見てきて、あらゆる面でコロナ対策に不適格であることが明らかになってきたからだ。最大の弊害は、コロナ対策に真つ正面から向かい合おうとせず、常に「他の事」で頭がいっぱいだったことだ。

### ●黒川問題

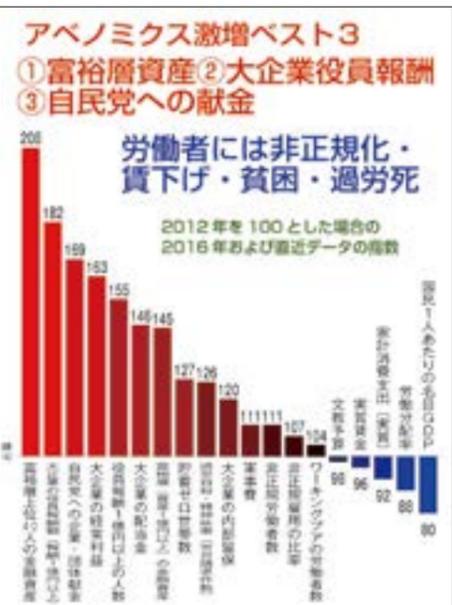
一月に中国で新型コロナウイルスが蔓延した時期には、黒川検事長人事の画策で頭がいっぱいで、水際対策が後手に回った。黒川問題をクリアしなければ、森友、加計、桜、河合疑惑にフタをできなくなり、憲法改正への筋書きが狂ってしまうからだ。

### ●緊急事態宣言

二月以降、国内感染が広がると「緊急事態宣言」に固執し、十分使える感染症対策法を「民主党政権が作った法律だから」と、わざわざ法改正までして、日時を費やした。「緊急事態条項」を軸に憲法改正に繋がったからだ。

### ●祝勝五輪

東京オリンピック・パラリンピックの延期問題では「コロナとの戦いに勝った証」とし



の完全な形で開催」こ  
わった。「祝勝五輪」の  
パガンダを引き金にナ  
リズムを煽り、憲法改  
民投票に導きたった

### ● 電通優遇

「持続化給付金」や「  
Ttoキャンペーン」で  
通など特定の業者を優  
カラクリを組み込んだ  
キャンペーンCMの応援  
して期待する電通を優  
意図が透けて見える。

### ● 画策ばかり

このように一事が万  
心のコロナ対策の進め  
いて、真剣に検討しな  
善の道を進むべきとこ  
に改憲や、そのための  
当てるバラマキ、改憲  
のお友達優遇に、官邸  
ともに画策することに  
労力を費やしてきたの  
首相の健康不安も、こ  
た画策によるストレスが  
のひとつだと言っても  
はない。

### ● 本題後回し

その結果、肝心のPCR

査の拡充や、医療体制  
は、今もっておざなり  
放置され、自治体の責  
投げされ、小池東京都  
吉村大阪府知事が、身  
フォーマンズもあつて、  
を集めているありさま

### ● 退陣要求

今や健康不安の如何  
らず、コロナ対策に不  
安倍首相は退陣し、真  
ナ対策を正面に見据え  
長期的で科学的な社会  
策を、国民、労働者、  
と共に進めていく姿勢  
た政権に譲るべきであ  
(松本誠也)



## コロナの夏と山歩き

今年は今までにない  
の夏だ。新型コロナウ  
感染拡大で夏の風物詩  
花火大会・お祭り・甲  
イベント等々が中止に  
り、3密を避けるという  
で地域や職場で制限さ  
暑の夏だった。

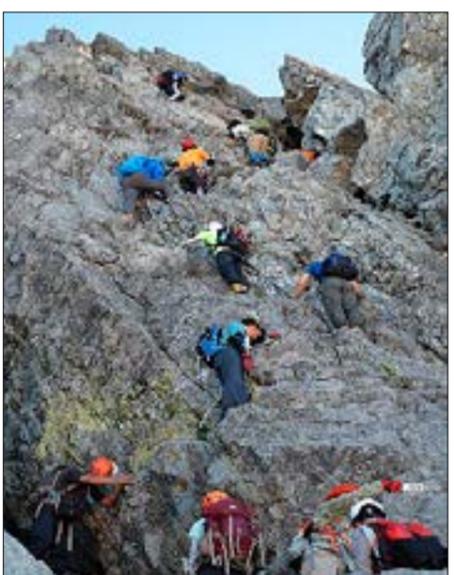
私は子育てや介護が  
ここ10年位毎年夏季休  
使って連れ合いと山歩  
てリフレッシュをして  
6月コロナの感染者が  
ち着いたので今年計画  
た山小屋に連絡すると  
コロナ対策として完全  
宿泊人数を制限し、寝  
し出しはできなく寝袋  
するようにということ  
今でも山小屋は、どん  
んでいても宿泊を希望  
は全て受け入れ、寝具も  
されていたが、これも3  
避ける対策なのだろう  
準備をしていた。



立山別山から見た剣岳

く取り上げた。自治体  
の感染者というもある  
が、感染者が差別や偏見  
が、感染を受けて傷つ  
のだから大きく取り上げ  
きではない。治療薬も  
いつ自分も感染するかわ  
ないのだから感染しても  
互い様」という気持ち  
て静かに見守って欲しい  
。コロナの夏は山歩き  
なく、やっこの思いで  
た剣岳を思い出したい。  
剣岳は富山県東部の立  
峰にある標高2999m  
で、一般登山者として  
難度として知られ北アル  
の岩峰。険しい稜線と  
がおりなす山で岩稜伝  
場やはしごルートがあり  
所としてカニのヨコバ  
ニのタテバイと呼ばれる  
後にした。

同じ山小屋に泊まった  
婦から剣岳に登った話  
ていたら、ゆっくり行け  
けるかなと思うようにな  
富山県在住の女性は毎  
から見ても剣岳の表情が  
話を聞いて、私が毎日  
を見るのと同じだと思  
剣岳に親近感を感じ「よ  
年登ろう」と決意をし  
後にした。



かにの縦ばい

しかし、翌年連れ合いが  
にかかり山には登れな  
の次の年から徐々に山  
はじめ昨年剣岳に登  
できた。4年越しの思  
詰まった山だったが、  
大変だった。断崖絶壁  
峰を登る時は下を見  
にして上だけ見ている  
てやろうという気持ち  
ワクワクして登り、苦  
たが頂上に着いて登  
時の達成感は何とも言  
うれしさがあ、頂上  
る大パノラマは素晴  
のだ。

## 中学時代の不思議な思い出(六義園)

### ● 六義園

先日、東京の文京区  
「六義園(りくぎえん)  
この公園は、もとも  
時代の武家の回遊式  
大きな池の回りに桜  
ミジの木が植えられ  
区民の憩いの場とな  
のだが、それはさてお



だが、下りでドキドキ  
峰が終わる頃とすると  
今度は大小さまざまな  
がゴロゴロ散乱して  
場が続く。早朝から歩  
れもあるのかズルッと  
ヒヤリとしたが、落石  
ように一歩ずつ慎重に  
歩きながら5年前、滑  
で息子さんを亡くした  
女性と立山で出合い「  
子に会いに来るんです  
話していたことを思い  
気持ちを引き締めて滑  
ように歩いたが怖かつ  
山歩きとは不思議な  
歩いている時はなんで  
苦しい思いをしなけれ  
ないのか自問自答したり

まであきらめないところ  
会運動にも人生にも通  
かもしれないと思っ  
怖は消えて達成感だけ  
また山に登りたくなる  
きはどんな事があつて  
落したらどうしようと  
感じたりしているが、  
てしまうと何故か苦し  
怖は消えて達成感だけ  
また山に登りたくなる  
きはどんな事があつて

### ● 教育実習

あれは中学生の時。あ  
確か「歴史」の授業だ  
思うが、「班目(まだらめ  
先生という女性の教育  
「先生」が紹介された  
議な先生だった。日に  
ような赤い顔で、大き  
していて、何となく南  
の神像か仏像を思わせ  
い風貌だった。

その班目先生の教育実  
テーマが「仏教の歴史」  
た。初めて聞く異国の  
「マガタ国…、コーサ  
アシヨカ王…、」不思議  
語に、生徒達はシーン  
聞き入った。今では具  
内容は、すっかり忘れ



### ● 遠足

数ヶ月後、教育実習の  
くくり、班目先生はみ  
で六義園に遠足に行こう  
提案した。みんな楽し  
の日を迎えた。もう秋  
ていて、紅葉の庭園を  
ついて歩き、それから  
が思い思いに歩き回  
実習授業のテーマと六  
が、どう関連している  
今でも良く分からない  
んな心から楽しい時間  
したので。校区のすぐ  
くにあるながら、意外  
義園を訪れたことがな  
が大半ではなかったら

### ● 職員会議

この話には、思わぬ後日  
がある。僕たちにとつ  
しい遠足だったが、ど  
目先生はこの遠足につ  
学校に正式に話を通  
かったらしい。後日、  
議で問題になってしま  
だそうだ。「万一事故  
たら誰が責任を取る  
と。その話を聞いて、  
悲しくなった。「先生  
ちのためを思って、美  
園に連れて行ってけれ  
後で叱られたらどう  
まあ、今思えば実に  
で、それでいて天真爛  
教師の卵だったのだ  
その後、班目先生に  
とはなかった。

### ● 思い出

今でも六義園を散策し  
がら思い出す。教育実  
仏教の歴史…、マガタ  
コーサラ国…、アシヨ  
…、六義園…、職員  
班目先生…、大きな  
今どうされているだ  
か？それでも、あれは  
たのだろうか？



六義園 「しだれ桜のライトアップ」

立派な大人：、立派な世の中：、僕はハッと我に返って夢から覚めた。  
 マガタ国とコーサラ国どころではない！世界にはもっとひどい紛争が絶えないではないか？この日本も「敵基地攻撃能力」等と言いつつ始めた。  
 アシヨカ王の征服戦争どころではない！もつとひどい専制主義や覇権主義が、はびこっているではないか？日本の首相は「大日本帝国」を復活させようと躍起になっているではないか！

● 苦笑

班目先生が健在なら、もう退官されているお歳か？今の教育と社会の現状を、どう思っておられるだろうか？できることなら聞いてみたい。  
 「班目先生！先生の教育にかけた思いは、叶えられましたか？」  
 「…どうでしょうね。…とこであなたは？」  
 黙って苦笑する先生の慈悲深い顔が、思い浮かぶのだが、果たして？

(松本誠也)

敗戦から75年、暑い夏の戦争報道がことさら多かったようです。しかし、被害と加害が分断され、あの戦争は何だったのか、敗戦後の75年のこの国の歩みにどのように評価が与えられるでしょう。  
 憲法第9条のおかげで日本は戦争をしないで来られた(平和だった)とされ、これに「唯一の被爆国」という唯一無二の立場が付け加わる

ことよって、何か戦後世界の平和をリードしてたかの錯覚があります。  
 ここに「被爆ナショナリズム」の落とし穴がありそうです。  
 この言葉の発信源がどこなのかかわりませんが、「週刊金曜日」(7月31日)特集「原爆から

被爆ナショナリズム

コラムの窓…



(上) 旧広島陸軍被服支廠 (下) 被爆被害を象徴する原爆ドーム



(下) 被爆被害を象徴する原爆ドーム

75年「ノーモア・ヒロシマ」のこれから」のなかで、東琢磨氏が次のように述べています。  
 ヒロシマの記憶の継承が議論されているけれども、すでに膨大な出来事が忘却され、その上に「戦後焦土から復興した広島」や「ノーモア・ヒロシマ」の物語が立ち上がったように、次のように述べています。  
 この75年の間に、「記憶」そのものが選別されてきました。その上に「被爆ナショナリズム」も成り立っている。しかも、韓国の歴史学者・権赫泰さんが『平和なき「平和主義」』(法政大学出版局)で指摘したように、「被爆ナショナリズム」を立ち上げていったのは主に「革新陣営」でした。そのことを少しずつ反省しながら、私たちは「ヒロシマ」を語り直す必要があります。(21ページ)  
 同誌で植松青児氏は、被爆者・沼田鈴子さんの実践を紹介しています。沼田さんは「アジアの国々では今も『原爆のおかげで日本の侵略や支配から解放された』と認識している人は多い。その状況に向き合い、日本の戦争加害を謝罪し、被害国の人と手を握りあつてきた」(24ページ)と評しています。  
 ある出来事をきっかけに、沼田さんは「ヒロシマ」から語り始めるのではなく時系列に先行する日本の加害行為への謝罪があり、その後自らの被爆体験を語ったということとです。  
 自らの体験をそれがすべてであるとするのではなく、批判的認識を持つことの重要性がここにあります。  
 加害の忘却こそが、この国が陥って這い上がる事ができない泥沼です。  
 8月3日に放映されたNNDキュメント「レンガの記憶 広島 被爆建物語る」では、15歳で学徒動員され

た岩切千枝子さんが軍都広島について語ります。  
 岩切さんは陸軍被服支廠で軍服を洗う作業をしていました。その被服支廠は4棟(国1・広島県3)あり、県が2棟を解体するという動きがありました。  
 当然、反対運動が高まり、今はその動きは凍結されているようです。戦争遺産として残す意義ははかり知れませんが、どのように残すのかそれが問題でした。原爆ドームは被爆被害を象徴する遺産として残されましたが、戦争遂行施設だった陸軍被服支廠はどうでしょうか。  
 岩切さんは、「原爆で被害を受けたが、その前は加害の町であったことの証明だと思う」「加害の歴史と被害の歴史と両方を語っている『もの言わない証人』だと思っている」「加害を抜きにして被害だけ伝えるというのは違うと思う」と語ります。今は亡き沼田さんや、90歳の女性がこの言葉に私は敗戦から75年の確実な歩みを感じます。  
 (晴)

「私たちが働くのがマルクスを学ぶ資本主義労働の経済学」

佐々木隆治著 旬報社2012年9月刊

※※ 本書は自らの生活のために、会社等に雇用されて働くことの自発的選択した労働のあり方、すなわち賃労働と呼ばれる労働形態に焦点を当て、その観点から『資本論』を説明してゆく新機軸の手法を取った、マルクス『資本論』への最適の入門書である。 ※※

本書のはじめにおいて、佐々木氏は次のように詳説する。「一昔まえとくらべて就職がむずかしくなり、正社員で働きたいのに、やむをえず非正社員で働いている若者が増えている。しかも、いったん正社員になれたからといって、働き続けることができる保障はない。違法な長時間労働や新入社員にたいする嫌がらせが蔓延し、勤め始めてからわ

ずかな期間で辞めしてしまう人も少なくない。働こうと思っても働けない、あるいは、ふつうのまっとうな働き方をすることがむずかしい、そんな社会になりつつある」。

「ところが、いまや『年功賃金』や『終身雇用』さえもなくなろうとしている。以前と同じように、あるいはそれ以上に劣悪な労働条件で働くことを求められるにもかかわらず、

ず、企業側が必要ないとみなすやいなや、簡単に解雇されたり、嫌がらせによって退職の乱暴な使い捨てによって、働いている人々が心身の健康を害する事例も後を絶たない。しかし、そんな過酷な状況であるにもかかわらず、私たちは多くは働こうとする。あるいは、これから働く予定のものには就職活動をする。むしろ、雇用が厳しさをますますなかで、『働きたい』という願望は以前より強まっている

とさえ言える。これは就職活動をする。むしろ、雇用が厳しさをますますなかで、『働きたい』という願望は以前より強まっている

佐々木隆治

読書室



生活のために、会社に雇われ、働くのは当然のことだと、私たちは考えている。しかし、それは本当に当然のことなのだろうか？なぜ私たちは過酷な労働を自ら選んで行おうとするのか、それを可能にしているものはなんなのか？ラディカルに問い直す

佐々木氏の現状認識である。この

私たちがもう一度問うてみるべきだ、と佐々木氏は言う。「なぜ、私たちは過酷な労働を自ら進んでおこなおうとするのか、これを可能にしているものはなんなのか」と。周知のように資本主義を解明したのは、マルクスの『資本論』だ。だが難解である。そこで佐々木氏は、『資本論』の入門書を書いた。その特徴の第1は、『資本論』の単なる教科書的な解説ではなく、私たちにとって身近な、生活のために自発的に雇われて働くという労働のあり方、すなわち賃労働に焦点を当て、『資本論』の内容を説明するという手法をとっていること。その第2は、基礎から丁寧に説明した『資本論』入門であること。

第1の特徴は、賃労働は資本主義と切っても切り離すことができない密接な関係があることから、資本主義を解明することなしには賃労働を理解できないし、賃労働を解明することなしには資本主義を理解することにはできない。だから賃労働をテーマとすることは同時に『資本論』入門にふさわしいのである。第2の特徴は、佐々木氏によれば類書と比べて本書の最大特徴である。実はこれまでの『資本論』入門の多くは基礎的部分を丁寧に説明していない。なぜならマルクスも認めていると精神労働

## 第2章 私的労働と商品

コラム 脱商品化と生活の安定

## 第3章 値札と貨幣

コラム 貨幣崇拜と文学

## 第4章 賃労働と資本

コラム 日本企業の強力な指揮命令権

## 第5章 労働時間と自由時間

コラム 賃労働と性差別

## 第6章 賃労働と生産力の発展

コラム 技術進歩と労働時間

## 第7章 賃労働と所有

コラム 非正規雇用と相対的過剰人口

## 第8章 労働の自由を目指して

コラム 現存社会主義と新しい福祉国家

## あとがき―『資本論』をよ

り深く学ぶために

## さて佐々木氏が具体的に工

夫し詳しい説明を付した所とは、端的に言えば序章から第4章である。したがってその部分を短評することで、この書評の責を果たして行きたい。序章は、マルクスの方法の

説明である。マルクスの方法を理解することで、その後の展開がより一層理解し易くなることは明白である。ここで佐々木氏はソ連で作られたマルクス像と哲学者との認識に反対する。何よりもマルクスの哲学批判は彼の理論活動の根幹であり、世界の解釈ではなく、この世界の変革こそが彼の問題意識だった。すなわちマルクスがやろうとしたことは、単に世界の矛盾を指摘し、これに「正しい理念」で社会主義を対置することではなく、この現実の中に社会変革の契機を発見することだったのである。

その核心は、現実の世界が「なぜ、いかにして」存在しているのかを問うことである。現実が「なに」であるかではなく、「なぜ、いかにして」成立しているのが重要である。マルクスは、目の前の現実の人間たちが取り結ぶ諸関係から「なぜ、いかにして」この現実が成立したのかを解明したので。これが『資本論』のマルクスの唯物論的方法である。

そして資本主義が歴史的に成立したものならば、そのことを問題にしない経済学は批判されなければならない。し

たがってマルクスの『資本論』は、資本の運動法則を明らかにするだけでなく、同時に副題となる既存の経済学批判でなければならなかったのである。

第1章は、労働とは何かの

説明である。現実の人間は自然の一部であり、現実の生活は自然とのやりとり、つまり物質代謝の中で成り立つ。すなわち労働とは人間と自然との物質代謝を意識的に媒介し、その代謝を規制し制御するものである。こうして人間は労働を通じてその他の人々との結びつき、つまり生産関係を

取り結ぶことになるのである。

第2章は、マルクスが商品の

分析が厄介とすることに對しての佐々木氏の易しい説明である。商品についても「なに」を問うのではなく、「なぜ、いかにして」商品であるかが問われなければならない。人間関係が直接的に把握できる過去の共同体や家庭の中では、労働生産物は商品ではない。だが確かに生産関係を取り結んでいるが、資本主義社会では現実にはパラバラに商品を生産しており、その生産関係は商品交換を通じて確認

される。すなわち現実の人間は、商品という対象を交換することを通じて、自らがパラバラに行っている私的労働を社会的分業の一分枝の社会的労働として現実に実証するのである。

第3章は、『資本論』の難

解箇所である価値形態と物神崇拜の説明である。この説明は部分的には第2章とがぶる。マルクスを引用すれば「困難は、貨幣が商品であることを理解する点にあるのではなく、いかにして、なぜ、なにによって、商品が貨幣であるかを理解する点にある」。この点に對する佐々木氏の工夫した易しい説明は本書の白眉である。

第4章は、いよいよ本書の

メインテーマである賃労働の説明となる。現代の私たちは労働一般を賃労働と同じものだと考えている。だが実際はそうではない。この同一視が賃労働の特殊性を見失わせ、固有の特徴を理解不能にする。では賃労働の本質的な特徴とは何か。それは賃労働者が売るのはその労働ではなく、自らの労働力である点にある。賃労働とは、労働力商品の買手がそれを消費する際に労働

力商品の売り手によって行われる労働のことである。資

本家は労働力商品を購入し使用する

ことで、労働力商品の価値以上を引き出して剰余価値を取得する。それに対して労働力商品の売り手は自らの再生産費を取得するにすぎない。賃労働者は資本家によって搾取されることになる。すなわち資本主義的生産過程においては、生産手段を所有する資本家が賃労働者を支配するのである。

このことに関連してこの章

の「コラム 日本企業の強力な指揮命令権」は重要である。数十年前の日本の雇用システムでは、「長期雇用」と「年功賃金」がある程度保証される代わりに、仕事の範囲と責任については労働組合側の規制が弱かった。既に上記2条件がなくなつたのに労働組合の規制・限定はないに等しく、強力な命令権だけが健在なのである。

紙面の関係から後は省略せざるをえないが、第8章では賃労働者の生産手段に対する従属的な関わりを変えるものは、アソシエートした無所有者たちが労働の自由と人間が行う自然との物質代謝の意識

的媒介を自由に行うことにある、と佐々木氏は説明している。

マルクスは、資本主義の下で発展した生産力を基礎として労働の自由を実現するならば拡大された自由時間において労働の自由を超えた、真の自由が可能になると展望した。それが資本主義に代わって新たに生み出される社会のアソシエーションである。

このことに関しては、「コラム 現存社会主義と新しい福祉国家」と「あとがき―『資本論』をより深く学ぶために」の熟読をぜひとも読者に期待したい、と私は考える。

佐々木氏は「本書が、現代の労働問題を考えるための理論的基礎として、また『資本論』に入門するための一助としてお役に立てば幸い」としたが、まさに役立つ本である。私も自信を持って、皆様へお薦めできる本に仕上がっていると確言するものだ。

(直木)

# 本工と沖縄のかけ橋をめぐって

# エイジズの沖縄通信

## N073

## GO-TOと米軍による沖縄のコロナ感染

沖縄のコロナ感染拡大が止まらない。沖縄県は当初8月1日、15日としていた緊急事態宣言の期間延長に踏み切り、29日までの約2週間延長した。

沖縄県内累計感染者数は20日現在で1804人。GOTOトラベルによる7月の4連休の観光客の訪問拡大の後、県民の感染は爆発的に拡大し続けている。直近一週間の人口10万人当たりの感染者指数は31.02人で、東京・福岡・大阪・愛知を上回りダントツの日本一だ。遊興街だけでなく病院、老人施設、幼稚園などでのクラスターの発生、店舗の休業・廃業などにより、県民生活は大きな打撃を受けている。

その中で、沖縄のコロナ感染の最大の悩みは「米軍基地

での感染」である。最初の米軍基地でのクラスターは7月4日の独立記念日パーティーで発生した。その後、7月から米軍兵士の基地移動時期と重なり、基地全国の米軍専用施設の

70%を占める沖縄に米軍感

染の大半が集中した。米軍関係の新規感染者は累計355人以上となっている。また、

約9千人の軍従業員、タクシ

など軍関係の業務、基地外居住の米軍人軍属との日常生活

上のつながり、米軍によるホテル借上げなど等々、米軍からの感染拡大の脅威が常に存在する。

米軍コロナ汚染で起こった

問題に「米空母コロナ感染者の沖縄移送計画」がある。

この問題について沖縄の知

人は次のように報告している。

『今年3月、 Guam に向かっ

て太平洋を航行中の米原子力

空母セオドア・ルーズベルト

で新型コロナウイルスの集団感染が発生した。この空母は総排水量

10万トン、全長333m、FA18戦闘攻撃機やヘリコ

プターなど70機前後を搭載、加圧水型原子炉2基を積み、

航空要員を含め全乗組員は5000人になる。密集、密閉、密着の「3密」の典型的

ような空間である。

空母は Guam 島に寄港した

が、感染拡大が止まらない事態に対し、艦長のクロジャー

大佐が海軍上官に「乗員を上

陸させ、検査、治療を実施する」「感染拡大回避のため緊急退避の裁可を仰ぎたい」と

異例の訴えを行なった。ところが、海軍長官代理は「大量

の兵器、弾薬、航空機の保守、

火災の危険、原子炉の運転」

などを理由に挙げ、艦長の直

訴を「愚か」と断じた。これ

らのいきさつがマス

スコミにも流れ、

その結果、艦長の

解任、長官代理の

辞任という事態に至った。

琉球新報8月20日付紙面によると、この時、乗組員の隔離先として第一候補に挙げられたのは沖縄だったという。横須賀の第7艦隊司令部がうるま市のキャンプ・コート二に司令部を置く第3海兵遠征軍

と協議し、普天間基地と海兵隊基地に3000室、厚木基地に4000室を確保することを決めたが、第7艦隊司令部の上部組織の太平洋艦隊司令部が①沖縄まで9時間の空路移動でさらなる感染拡大のリスクがある、②日本政府との関係を複雑化させる、との理由で沖縄案を撤回したという。

報道されるや県内で、「一

体沖縄を何だと思っているのか」と批判の声が沸き起こった。沖縄が米国の軍事植民地

になっている現実。米軍にとっ

ては、日本軍との激戦を通じ

た。



数万の米兵の犠牲の上に奪い取った戦利品。事件・事故のたびに、戦後75年続く軍事基地沖繩の姿がさらけ出されるが、日本政府の指導層、歴代の政治家、官僚、裁判官たちは米軍追従を言葉巧みに隠蔽することで政権の継続をはかる歪んだ政治を続けてきた。

このように、いつものように「沖繩を利用する。沖繩に押しつける」現実がある。

この問題の根本は「日米安保」と「地位協定」である。特に、「日米地位協定」による米軍の権利」によって、米軍関係者はパスポートなしで、また日本の検疫検査を受けずに自由に入出国しているのが現実。

このように、コロナ感染の重要な検疫や感染対策が米軍任せにならざるを得ず、「水際対策の穴になっっている」と指摘。

日本側の要望もあり、7月下旬以降は無症状でも軍属、家族を含む米軍関係者は入国時に全員PCR検査を受けることになったが、関係者は「基地内で感染拡大をここまで防げなかった米軍の防疫を信頼できるか」と懐疑的である。

(富田 英司)

## 新しい生活様式

# 色鉛筆

その中で生き延びていくための新しい生活様式がいろいろな場所であつたわられています。

コロナ禍が終息せずに、倒産した企業も多く高校生や大学生の就職が一度決まったのにもかかわらず内定取り消しになった人も多くいて、経済も落ち込んでいます。

しかし基礎疾患を抱えている私は、罹患すると重症化する可能性もあり、自分の命は自分で守るしかないと感じています。

学校だと文科省の通達、趣味の合唱では、合唱連盟のガイドラインなどが提示されています。

特別支援学校で働く私は、在宅勤務などの時期を経て学校再開に心躍らせています。

私自身も年に一度の帰省もできず、祖父母の墓参りにいけないで、毎年のルーティンが叶わないことに残念な思いで一杯です。

学校は単に勉強だけをする場所ではなく、生徒同士の関わりを通じて仲間意識を育てる場所であることを改めて感じました。

その中で生徒とともに新しい生活様式をしながら、お互いの命を守らなければいけないのです。たびたびくる文科省の通達の中で、徐々に教室での生徒間の距離が縮まっています。本当に大丈夫なのだろうかと感じます。

以前から私は普通高校の四十人学級に反対でした。せめて半分の二十人学級ならば本来の学校の姿、勉強だけする場所ではなく生徒たちがいきいきと活躍できる場所として理想の人数だと思っています。

コロナ禍がひどくなって

私もなかなか実態をつかめ

たのだろうと感じます。

**「新しい生活様式」の実践例**

**基本的な対策**

- 人との間隔は、できるだけ2mに空ける
- マスクを着ける。熱中症には十分注意する
- 帰宅したら、まず手や顔を洗い、すぐに着替える

**移動**

感染流行地域への出入りを控える。接触確認アプリを活用

**部屋**

小まめに換気し、密集、密接、密閉の「3密」を避ける

**健康チェック**

毎朝、体温を測り、発熱や風邪症状があれば自宅療養

**買い物**

すいている時間に素早く計画的に。通販や電子決済も活用

**公園や公共交通機関**

すいている時間を避け、会話は控えめに

**食事**

大皿を避けて個別に料理を取り、グラスやおちょこの回し飲みは避ける。おしゃべりを控えめに料理に集中

**働き方**

テレワークやローテーション勤務、時差通勤を活用。会議はオンラインで

※厚生労働省の資料を基に作成

ず、対策もわからないことばかりです。私自身ももっと勉強をしていかなければと感じています。

しかし、話がころころ変わり、必要最低限の命を守る政策よりも、経済優先のこの国は残念な国だと思えます。

最初の緊急事態宣言もなんだったのかと思います。突然の休校で多くの混乱を招いた学校現場でした。普段の仕事が倍以上になり大変でした。

それよりも、生徒たちの気持ちが混乱し涙・涙の二月末が私の心に刺さり、悲しい思いをしました。卒業式にも参加できなかった在校生の気持ちを考えてほしいと思います。

これから私にできることは、生徒たちが将来、自立にむけて過ごしているようにこんな国の中でも、ともに歩んでいくことが大切だと感じています。

(宮城 弥生)